

## 今日のトピック 米国株式市場の見通し

# 好調な業績上振れを伴った株価収益率の低下

### ポイント1 落ち着きを取り戻しつつある

- 2月13日のS&P500種指数は前日比6.94高の2,662.94となり、小幅ながら3日続伸しました。取引時間中に価格が上下する不安定な状況が続いていますが、1日当たりの変動幅は小さくなってきており、徐々に落ち着きを取り戻しつつあります。

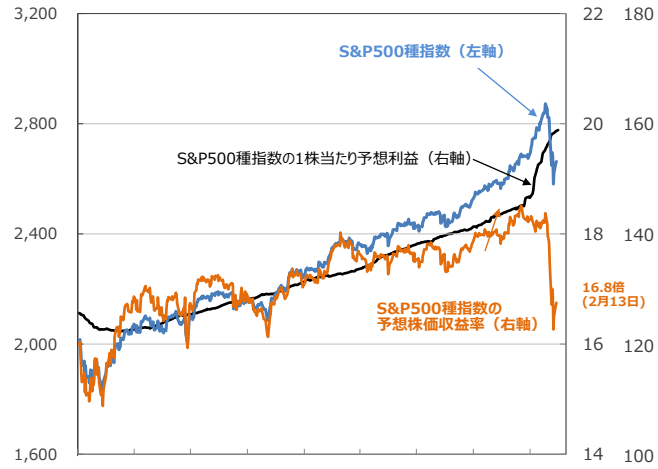
### ポイント2 株価収益率は水準修正

- S&P500種指数は1月26日に終値ベースで史上最高値の2,872.87を記録した後、2月8日の2,581.00まで10.2%下落しました。
- 株価を1株当たり予想利益で割って算出する予想株価収益率は、同期間で18.4倍から16.3倍まで、11.4%低下しました。株価よりも予想株価収益率の低下率が大きいのは、予想株価収益率を計算する際分母が拡大した、すなわち、1株当たり予想利益が増加したためです。株価は2017年11月頃の水準まで低下しましたが、予想株価収益率は2016年11月以来の水準まで低下しています。

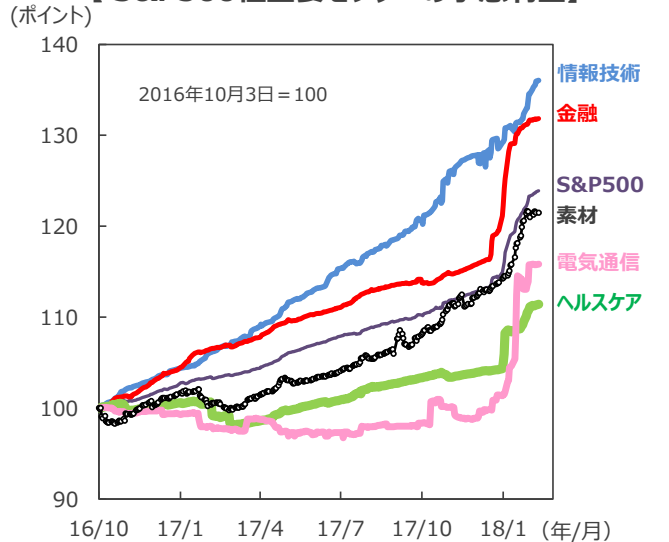
### 今後の展開 業績上振れが下支え

- 米国の金融市場は、株価と金利の間で新たなバランスを模索する状況が続いています。今後も物価指標が市場見通しを上回るなどインフレ懸念が煽る可能性があり、金利に上昇圧力がかかる状況が想定され、株式市場の本格的な回復にはまだ時間がかかりそうです。
- ただ、米税制改革決定後、予想利益が顕著な上方修正となって、バリュエーションを16倍台まで引き下げている点は注目されます。好景気と堅調な業績が株価を十分支えられと考えられます。

【S&P500種指数の推移】 (ポイント) (倍) (米ドル)



【S&P500種主要セクターの予想利益】



ここも  
チェック!

2018年2月6日 日米株式市場の見通し

2018年2月5日 引き続き良好な内容だった米雇用統計 (2018年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。